

# さ ざ ん か

第 113 号、2011 年 4 月

震災後、ひと月以上過ぎました。被災地にはこれから、違うカタチでの新たな試練がやってくると思われます。震災孤児の今後はどうなるのでしょうか。親を失った子供たちは、たくましく生きていてくれるのでしょうか。親戚に引き取られるとしたら、せめて良い親戚であってほしいなと思います。あるいは、施設に入所しなければならないのでしょうか。

兄弟、姉妹がばらばらになることはないのでしょうか。せめて、経済的にだけでもハンディキャップにならないような仕組みは作れないのでしょうか。

病院を追われた高齢者は、これからどうなっていくのでしょうか。家族を失った高齢者に生き甲斐を求めることはできるのでしょうか。住み慣れた土地を離れて、劣悪な環境で過ごす人生最後の場面設定はとてつらいものだと思います。それでも明るく振る舞っている映像をみるとほっとしますが、たぶんあれは一部のマスコミ用だろうと、マスコミ不信の私は思ってしまうのです。

おカネの話を。死者、行方不明者に払うお見舞金は後回しにして、現在生きている人々に沢山回して欲しいと思います。また、一律公平な分配金の配分は、決して公平な配分ではないということをもっと議論してほしいとも思います。もういい加減、議論逃れ、責任逃れの悪平等主義はやめてほしいものです。たとえば的外れですが、アフリカの人口数万人の小国と、我がニッポン国が国連ではまったく同等の 1 票の権利である。といのは、彼方からみれば平等でしょうが、此方からみればそれこそ悪平等です。思考停止の一律配分の義援金も、その必要度に応じて有効に使用してもらいたいと切に願います。

もちろん、そこには見方次第では依怙鼻頂とか、不公平だという議論が百出するのは承知の上です。とくに、マスコミが一番いちゃもんつけそうですが。それでも、誰か強いリーダーシップで、救うべきものを救い、自力で厚生できるものには援助なしで更生してもらい、その援助分を救うべきものに回す、という強引であるが正義に裏打ちされた施策を取ってくれないのでしょうか。誤解を恐れずにいえば、90 歳の高齢者に払う 100 万円と子供たちを養わなければならない中年に払う 100 万円は、一見公平に見えて実はとても不公平だと思うのですが、どうでしょうか。それでも、やはり一律平等が必要なのでしょうか。

---

---

## 俳句

---

---

西屋敷喜美子

湯につかり 被災者思ふ 春の宵

三月の 悪夢となりて 大津波

東北の 未曾有の惨事 春の雪

---

---

## 病院からのお知らせ

---

---

\*4月から新たな医師が赴任いたしました。

古別府 裕明

樋ノ口 真

中野 賢二

永山 純（研修医）

いずれもきわめて優秀なバリバリの若手医師です。よろしくお願い致します。

\*肺炎ワクチンの予防接種を行っております。ご希望の方は各科外来に申し出てください。予約制になっております。

\*亜急性期病床は20床分準備してあります。リハビリテーション中心で少し入院期間が長くなりそうな方向けの病室です。ぜひご利用ください。

なお、ご参考までに、当院の一般の方の平均在院日数は20日前後です。

\*骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。

骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてもいいでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。

骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。

\*MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながることもあるからです。また、脳動脈瘤（くも膜下出血の原因となる）の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。

無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。

\*MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。

\*新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします

近年乳がんが増加傾向です。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。

\* 肝臓病、糖尿病、脳神経外科、難病などの特殊外来は診察日が決まっておりますので、診察希望の方はあらかじめご確認ください。

---

---

### 北薩病院の庭園 坂本 詮

北薩病院の外壁が塗りなおされ、昭和61年の新築移転のときと同じく美しくなった。さらに病院を盛り上げてくれるのが、進入路から駐車場、その周りの庭に咲き誇る花々と樹木の数々だ。主なものではそれぞれに歴史がある。桜と檜、それに南京ハゼである。

桜は古い病院の玄関に花を咲かせ、病棟の間、運動場の周り、また隣の羽月中学校にもあった。その下でよく運動会をしたり、花見を楽しんだりした。現病院の進入路から駐車場の周りに桜を植えたことには、誰も違和感がなかったと思う。木々は順調に育ち、今年も美しい花を見せてくれた。

病院の中心の駐車場に空高く聳えているのが檜だ。旧病院の医局の裏山に自生していたものを何とか新病院に移植したいと考えた。大分心配したが、無事だった。ほうきを逆さにしたような大きな枝を広げて、天を支えるような形をしている。南九州でこんなに大木になるのは、比較的珍しいと聞く。材木として優れていることで、昔はお寺や神社を建てるために盛んに植えられた。病院の檜は、現在ますます成長し、春から夏にかけて、若い目が息吹き、威風堂々病院の守り神という感じがしている。

真冬はともかく、夏から秋にかけて何か良い樹木はないものかと探していた。たまたま、大村市の長崎医療センターに行ったとき、紅葉の美しい樹を見つけた。それが、南京ハゼだった。中国原産、落葉高木、乾燥に強く、剪定にもよく耐え、夏に緑の花が咲き、秋に紅葉が美しい。北薩地方の気候にはよく合っていると考え、駐車場周りに植えた。以前の台風で枝折れがしたが、再生力は強く、本当に大きくなった。

その他の木々は旧病院から移植したもの、病院外装の設備に入ったもの、また多くの皆さん方が持ってきて自由に植樹したのものがある。それぞれに、楽しく、美しい。

---

---

### 雑談 俳句 夢 宮園 辰夫

僕も大正生まれです。お母さんの名前は何てえの？私、カツコです。そう、えらい堅そうな名前だね。(カツコちゃん) 仕様がなないね。俺タツちゃんて云うんだ。いい名前だね。やさしそう。そう、やさしいよ。何でそんなに確かめてみたいの。顔とかもすごくかっこいいのに、なんでそんな平凡な名前つけたのかな？と思って。それは親に聞いてよ。顔から見てすごくやさしく見える。そりゃあそうだ。やさしいんだもん。話するともっとこわ

い人かと思った。全然違うか。カッコちゃんと呼んだら、なんて返事する。そりゃタッチャンて云うわよ。そう、うれしいね。それ聞いて一安心したよ。もしかして馬鹿タツなんて云われたらどうしようかと思ったよ。

ところで、カッコちゃん、体悪いところないかい。機嫌をとってくれているの。年だからあっちこっちが痛くてね。そう、年ってそんな年じゃないだろう。「うん」大正10年生まれ。ほら見ろ、明治じゃねえじゃないか。まだ父ちゃんと寝てんのかい。いやもう早くから別々だよ。たまには寝るけど、でも寝るだけだよ。見てないから分かんないね。ハッハッ

その隣の人は何で来たの。「おはようございます」きれいな人なんだね。きれいの上にかわいいよ。今、いくつなの。「22歳です」そう、22か、付き合ってみたいね。おじさんと。そんなにおじいさんじゃないよ。80だよ。「ほほ年だ」そう、今日何で来たの。「自転車」で。そうじゃないよ、俺に会いに来たのじゃないのか。自転車だと云わなきゃ世間に悪いもんね。フンドシとカケゴトは向こうからはづれる、というけれどほんとだね。

名前はヨシエです。また、それがいい名前だね。「今何やってんの」「何も」武者修行か。じゃなかった花嫁修業で云う所かな。じゃおれが、ヨシちゃんと云うから、タッチャンて呼んでくれた。かわいくていいや。ありがとう。もうぼちぼち結婚でせう。もうしています。なんだ、結婚していんのか。見えなかったけどなー。「アッチ行け」その隣の人、結婚しているんでせう。「ハイ」旦那さんは何やってんの。勤めています。「ボーナス出るんでしよう」もう出ました。何か買ってもらったの。ハイ、とりあえず。「エアコン」2台新型と買い替えです。そら良かったね。お父さんに有難うといったの。いいえまだ。云って上げなよ。お父さん有難う。ちゃんと名前云ってあげなきゃ。「マサヒロ」さん有難う。いい旦那様だね。エアコン買って二人仲が冷めるようにハハ、じゃ、又ね。

#### 雑句

咲く桜 散る桜は 特攻の南の海  
大潮に 今を降り立つ 子供連れ

#### 狂句

子い説教<sup>せつきょう</sup>ついで父親<sup>ちち</sup>ずい妻<sup>かみ</sup>を叱<sup>が</sup>っ

焼耐<sup>しょうちやう</sup>ん勢<sup>いき</sup>い婆<sup>ば</sup>べ甘<sup>あま</sup>えたや叱<sup>どや</sup>やされっ

短歌 瀬戸よし子  
満開の桜と並びで寒椿 紅色冴えて 春は近づく

わが孫は はや成人となりたるか 我老いたるを思い知らさる

東日本巨大地震に想う 別府政隆

現在の世相をかえりみる時、自分の身の廻りに於いても、これまでと違って、いろいろな不安や心配がある中で、今回 3 月 11 日午後 2 時 46 分、突然東日本巨大地震が起きた。これまで国内史上、類を見ない大惨事である。テレビ放映によると、壊滅的な被害であるが、想像しがたい津波。7メートル～10メートル以上押し寄せた波とは我々にとっては全くの未経験だけに、再々のテレビ放映で、只々驚くばかりです。

今回の地震によって、改めて怖さを知らされました。また、私たちの身边にも原子炉があり、更に怖さを感じています。今回の被災者、人道支援が最優先とされているが、子供、婦人、老人の一人身の人も少なくないのでは、また、けが人も多い中で、これらを考える時に、今後政府はどれ程の支援が出来るのだろうか。いつまでに、何が出来るのであろうか、心痛の思いでならない。学校では卒業を前に又入試を前に子供たちを思う時、心痛の思いでならない。

被災者の全員が住む家、全財産を失い、又、親子を失い、更に友人を失い、生きる望みを絶たれただけに、苛立ちを感じます。同じ年代のお年寄りや、持病の皆さん、今少し頑張ってください。夜は冷え込むなか気をつけて下さい。私も弟が被災者の一人としています。4日経った現在でも連絡がとれません。また持病の妻と年寄りの母を持つ弟にとっては、心労とは思っていますが、心配しています。4日目の夜7時30分、弟と連絡がとれ、家族全員元気である事が確認がとれて、ほっと安心しているところです。何はともあれ、これからが大変です。出来る限りの支援をしようと思っています。

今後被災者全員が一日も早く、立ち直れる日を心から願っています。再々のテレビ放映を見る限りでは、当時の様子がハッキリわかる今回の津波は、瞬く間に町全体が呑み込まれていく。家共に流される人、車共に流される人、逃げ遅れ流される人、泣き叫ぶ人、必死に助けを求める人、がれきの下で待つ人等、あつと言う間の出来事。実に悲惨な事故である。津波に呑み込まれて行く人を、只呆然と見ているだけであつた。と語っていた。これらを観ていて言葉では表現できないものを感じる。一刻も早く、救出し、復興を願うものである。これまで、消防隊、自衛隊、警察隊、各種団体、各県消防隊、世界各国の応援隊等、また救援物質も届いているようで、一安心しているが、一刻も早く国を挙げての復興を願いたいものです。被災者と共に全国民が一体となって前向きに取り組むべきかと思

う。ニュースを見るたびにいたたまれない気持ちでいっぱいです。

---

---

## カラーマン、震災に学ぶ カラーマン（とその女）

悪夢のような大震災からひと月以上過ぎた。今回の震災で、日頃思いもよらないことが明らかになった。

（そうだね、非常時だからこそ浮かび上がってきたことがいくつかあったわね。）

日本の部品メーカーの底力が明らかになった。国内は言わずもがな、世界中でのあちこちで部品不足で最終完成品が出来なくなったという事実。グローバル化とはこういうことだったのだと知った。日本の部品がないと困る企業が世界中にたくさんあったのだ。小さな日本列島の東北の片田舎の工場が機能停止に陥ったくらいで・・・

（まさに日本の中小企業の底力ってとこね。久しぶりに世界に技術立国ニッポンの存在感を示したのではないかしらね）

実に多数の国からの支援があったことに驚いた。貧しい国からも義援金が届いたり、欧州のサッカー場での試合開始前の黙とうがあったり、「友達」米国の軍隊の原子力空母が活躍したり、台湾の多額の義援金に改めて台湾の人の親日度が明らかになったりした。

（そういう意味では、支援の話題の中で、中国と韓国の影が随分と薄かったわね。韓国では教科書の竹島問題がぶり返し、一度集めた義援金をまた配りかえしたとか、本当かウソかわからないような、たぶん本当でしょうけど、そんな話もあったようだね。）

放射線被害により、外国が輸入禁止処置をとったことで日本の野菜や果物が多くの国に輸出されていることを知った。日本農業も意外と海外展開していたのだ。

（ほんとうね。たぶん少額だろうから、実質的に損失は大したことないのでしょうか、水産品や農産品目は輸入と云う行為しかしてないかと思っていたから、日本から輸出していたなんて、何の根拠もないけれど、なんとなく嬉しかったわ。知恵を使えば日本農業や漁業の技術力は部品メーカー並みの影響力を世界に与えることが出来るかもしれないわね。）

私たちが普通に考えていることが、よその国では普通でないことを知った。大体、現代の平和ニッポン国では、みんなが災害にあって困っているときに、略奪とか暴動とかいう発想はないのだが、それでも関東大震災の時のことを考えると、いつ、どのような時でも日本人は冷静で、落ち着いているかどうかについては若干の疑問が残るところはある。

（まあ、あのころは情報伝達手段が今とか格段に劣っていたから、パニックに陥りやすい状況は今と比べられないかもしれないけど、朝鮮人に対して行った行為は事実として残る

のは残るわね。)

しかし、時代と共に人々も変わる。無慈悲にも、すでに抵抗力を失い死に体の大日本帝国に原子爆弾を、しかも軍事施設ではなく一般人がすむヒロシマとナガサキに投下した時代の米国と、原子力空母で原子力発電所の災害支援に来てくれた現代の米国とは違うのだろう。

(その辺が難しいわね。たとえ今はそうでも、明日はまた原爆を落とすアメリカ人に変身する可能性は否定できないわね。まだまだ心から信頼できる相手ではないような気もするし、もしかしたら遠い国ではあるけれど、近くの中国人や朝鮮人よりも理解しあえるのが彼らなのかもしれない、と思ったりもするわね。)

一部のアホが、義援金詐欺をしたり、被害地でコソ泥したり、身勝手な買いだめをしたり、また、無責任なチェーンメールを流したりしたのは、これだけ 1 億人の日本人がいればやむを得ないこととして理解しなければならないだろう。いつの時代にも、卑怯な者や姑息な人間や根っから悪い奴は存在するものである、ということも明らかになった。

100%安全という言葉がありえないことも明らかになった。世界でも有数の地震国、日本にそもそも原発はいらないのではないのか、日本人の知恵で何とか核抜きでエネルギー問題は解決できるようになるのではないだろうか、と思うようになった。なんでまた、こんなにも地震が起り、四六時中、災害訓練をしているような国にわざわざ原発を造らないといけないのだろうか。

もちろん、まだまだ 20 年とか、30 年間は原発は必要である。いますぐ、原発廃止などという核アレルギー原理主義者に組する気持ちはさらさらしない。現実問題としても、当面のクリーンエネルギーとしての原発は必要であろう。

(でも、原発はクリーンじゃない、てことも明らかになったわね。これだけ汚染してよくクリーンなんて言葉を使ったものだわね)

しかしながらだ。しかしながら、いつまでも、いつまでもは原発はいらないのではなからうか。福島で原子炉が爆発しなかったのは、東電の安全対策が十分だったからなのか、たまたま幸運にも爆発までいたらなかっただけなのか。問題は明らかになった。

(原子炉が本格的に損傷していたらと考えるとぞっとするわね。いまごろ、こんな振り返りをしている余裕はなかったかもしれないわね。しかも福島原発で 1 つでなくて 6 号機まであるんだもの。チェルノブイリどころじゃなかったはずだわ。)

国、大企業を全面的に信頼するのは間違いである、ということも明らかになった。御用学者もしかりか。マスコミもまた同様であった。

ドイツなどの外国の気象庁の天気予報図(放射線の散布予想図)をみて、初めて放射線被害、のスケールの大きさを実感できた。欧州の放射性物質がばらまかれたとき、彼らに

とってチェルノブイリは他人ごとではなかった。それ以後、原発の安全性をより追求してさらに原発を推進しようという国（フランスなど）と、安全性の追求に疑問を感じ、脱原発を目指した国（ドイツなど）に分かれた。どちらもありうる選択である。日本政府は、地震大国という立地条件の中で、どういう考え、どういうスタンスで原発を推進してきたのだろうか。そこに、しっかりとした哲学はあったろうか。

（原発を選択せずに、水力発電目的で水が豊富な日本列島にダムを沢山造っても誰も無駄な公共事業とは言わなかったでしょうにね。でも、原発は造るわ、ダムは造るわじゃねえ..）

東日本大震災があったからと云って、関東大震災とか東海沖地震とか東南海地震とかが来なくなったわけではない。何年後か、何十年後かに来ることだけは確かなようだ。類まれな美しい自然に恵まれた日本列島はまた、その見返りとも言うべく災害列島であるということを忘れずに暮らしていかなければならないのだろう。

最後に、日本の総理大臣にいかん存在感がないか、ということも明らかになった。政府はどうかかわからない。自民党だろうと、民主党だろうとそんなには変わらなかったように思うがどうであろうか。ただ、本当に人材と云うか、日本全体を明るく引っ張っていくオーラを持った政治家が居ないのもまた今回明らかになったことである。

それでもなお、と言うべきであろう。毎年総理大臣が変わる日本でありながら、これだけの大災害をきつと乗り切るであろうと世界が思っているとすれば、せめて、国民の足を引っ張ることさえしなければ、総理大臣はだれでも良いのかもしれない。

（それもなんかさびしい話だわね。あたしは、平成の偉人が出ることを切望しているのだけれどなあ）

---

---

## 編集後記

---

---

地震、津波は天災であり、原発事故は人災である。ということが明らかになってきました。冗談抜きで、いい加減な人たちに任せておけば本当にニッポンは危ないのだとしみじみ思います。100%安全だと言いきってきた国、電力会社の責任は重い。原子力に頼らない日本人の生き方、というものを説いた政治家が居たのでしょうか。わたしは資源が少なく、技術が進んでいる日本では原子力は大きな選択肢の一つだと思っていました。むやみに核アレルギーにとられるだけではいけないと。結果的には、国、御用学者、企業に見事に「原発の安全性」を刷り込まれていたということになります。

余裕と興味があるかたは、「原子炉時限爆弾 大地震におびえる日本列島」（広瀬 隆、ダイヤモンド社）を読んでみてはいかがでしょうか。地震列島に原発を量産する愚をおしえられます。災害が起こった後で警告したりする後出しジャンケンのような本ではなく、今回の大震災前の昨年出版された本です。（KT）



